

平成27年2月19日

日刊工業新聞 掲載記事

溶液・汚泥の濃縮・粉末化装置

# 濃縮に特化 廉価版

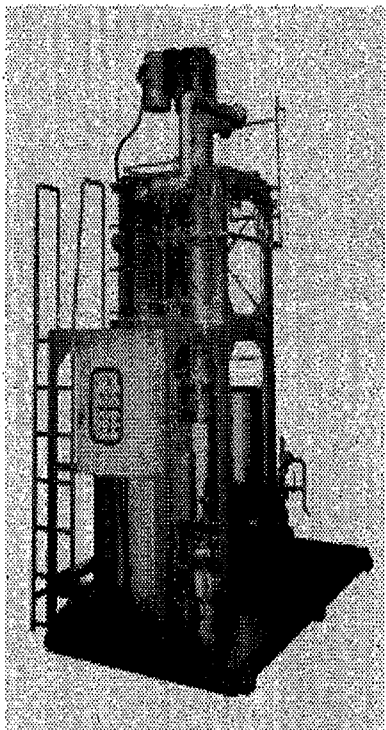
## 櫻製作所、海外展開も視野

櫻製作所（大阪市淀川区、井上正基社長、06・6302・5321）は、膜を使わずに溶液や汚泥を濃縮、粉末化する装置「ハイエバオレーター」の製品群を拡充する。液を粉末化する前工程用に、濃縮に特化した廉価版を4月に投入。粉末化の前工程を取り込む。用途開発でもリチウムイオン電池関連の受注を狙い、展示会出展を積極化する。同装置の受注は年間20台ペースだが、用途拡大などで同50台に引き上げる考え。

従来は同装置を単体で納めるケースが主だった。前工程用の廉価版の

提供により、塗装や食品、化粧品原料のプラント全体の受注を目指す。

製品群を拡充する「ハイエバオレーター」



同装置は、25日から東京・有明の東京ビッグサイトで開催される展示会

「国際二次電池展」の第一実業ブース内に出展する。半年ほど前から、リ

チウムイオン電池の負極やセパレーター用材料の生産へ向けた同装置の引き合いが増えたことから、広く周知を進める。リチウムイオン電池は発火などのリスク低減やさらなる性能向上が課題で、化学メーカーなどは製造に関わる新規装置の導入に積極的。櫻製作所の装置は、濃縮と乾燥の比率が安定し、膜を使わないためメンテナンス性に優れる点などが評価されているという。

海外展開も視野に入れ6月15～19日までドイツのフランクフルトで行われる化学・エンスニアリングの展示会「アヘマ」にも出展する。同装置は受注生産で、価格も規模に応じ1500万円から1億円以上と幅がある。